

議事録

会議等の名称	令和 8 年度 第 1 回東御市病院等運営協議会	開催日時	令和 8 年 6 月 12 日 (金) 13時～14時55分
		場 所	市民病院 2 階研修室
主催者(事務局)	東御市民病院	司会者	井出事務長
出席者	○委員 武藤会長、鮎沢副会長、山崎委員、小林委員、滝澤委員、花岡委員、星山委員、宮下委員、森野委員 ○市（事務局） 花岡市長、掛川副市長、岩橋院長、金井副院長兼看護部長、高塚診療技術部長、齋藤診療所長、藤沢助産所長、井出事務長、大塚医療事務部長、渡辺副主幹、酒井主査 ○市（健康福祉部） 小宮山健康推進課長、柳澤保健地域医療係長		
欠席者	酒井委員		
討議内容及び経過	（発言者名）	（発言内容）	
開会	鮎沢副会長		
会長あいさつ	武藤会長		
市長あいさつ	花岡市長		
報告事項 (1) 令和 7 年度病院事業の実施状況について	委員	処方箋について、紙と電子を併用している医療機関が増えている。デジタル化への対応に関して、電子処方箋の活用についても検討していただきたい。	
	事務局	その方向で現在準備中。	

	会長	助産所の報告に関連して、出生数の低下については母子健康や出産に伴うサポートが大きく求められている事案であると理解している。東御市でも国の支援に加え市独自の支援があるとのことだが、子どもの数が増えることは社会にとってとても大切なことだと思うので他自治体の様々な支援も含めぜひ検討し、病院側からも積極的に声掛けをしていただくとよいかと考えている。
(2) 令和8年度事業の方針について	委員	院長方針の救急体制の構築や救急患者の積極的な受入に関して、現在の状況はどうか。
	院長	病棟管理を行う常勤の内科医が減ってきている状況で負担はかかるが、輪番担当日を増やし、救急受入の増加を図っている。 令和7年度、上小地域全体の搬送件数は減少し、当院の受入件数も減少したが、受入率は年々向上している。 夜間や休日など、外部の当直医の専門性によって受け入れが困難な事例もあるが、救急対応力の高いパート医師が増えてきている。また、複数名の常勤医が勤務する時間帯においては、可能な限り要請を受け入れるという体制を構築しており、受入率の向上に繋がっていると考えます。
(4) 医学生奨学金制度について	委員	2名の方が応募されたとのことだが、どちらの地域の方なのか。
	会長	個人の情報のため、オープンにできる情報について事務局お願いします。
	健康福祉部	県内1名、県外1名に応募いただいた。
市長からの諮問	市長	諮問書朗読し、会長へ手渡し（市長退席）
審議事項 (1) 東御市病院事業経営強化プランの進捗評価について	会長	無痛分娩を希望する人が増えている一方で、母子特化型訪問看護や産後ショートステイなど他の産婦人科の診療所ではできない、助産所とうみの特性があると思うが、どう考えるか。それを工夫して発信すれば地域の外からも利用者と呼び込めるのではないか。
	助産所長	産後ケアについては丁寧な育児指導に評価をいただいております、他の病院から紹介をいただくこともある。自治体によって補助の上限回数が設けられたことにより利用件数としては頭打ちの傾向がみられるが、助産所ではお母さんが自信をもってご自宅に戻れるよう個室環境で手厚いサポートを行っており、そういった特徴を発信し広げていきたい。 母子特化型の訪問看護は市町村との連携が濃い事業であるが、市町村の方で扱い方がまだ定着していないのが現状である。産後ケアの補助の上限回

		数に達した後の支援を訪問看護で代替していければいいと考えており、市町村と連携し、さらなる利用者数の増加を図ってまいりたい。
	会長	特性をもっと活かしたポジティブな広報を行うとよいかと考える。
	会長	標語（評価）の決定について投票によることを提案 委員了承
	事務局	投票結果報告（【B】 8 名、【C】 1 名）
	会長	【B】が8名、【C】が1名、ということで、当協議会としては【B 概ね達成した】の評価としたいがよろしいか。（全委員了承） 附帯意見として、 1 地域の次世代人材育成の取り組みを一層拡充されたい。 2 母子健康推進のための体制と活動の強化を図られたい。 の2点としたいが、補正・追加等あるか。 （補正等意見なし。全委員了承） 事務局へ答申書作成を指示 →（事務局答申書作成、朗読） →（全委員了承）
答申	会長	答申書朗読し、副市長へ手渡し
	掛川副市長	「B」評価について、一年間様々な努力をした結果と考える。今後も病院職員一丸となって一生懸命努めてまいります。
閉会	副会長	